

パウロの母

母の日礼拝

2022/5/8

ローマの信徒への手紙16章

3 キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、**プリスカ**と**アキラ**によろしく。4 命がけでわたしの命を守ってくれたこの人たちに、わたしだけでなく、異邦人のすべての教会が感謝しています。

12 主のために苦勞して働いている**トリファイナ**と**トリフォサ**によろしく。主のために非常に苦勞した愛する**ペルシス**によろしく。

13 主に結ばれている選ばれた者**ルフォス**、およびその母によろしく。彼女はわたしにとっても母なのです。

ローマ教会の人々へのあいさつ

- 26人(3節～)の人たちへのあいさつ
 - その内、おそらく6人は女性
 - 「命がけで私の命を守ってくれた」「主のために(非常に)苦勞している」
- パウロが「母」と呼んだ女性
 - 「ルフォス、およびその母によろしく。彼女は私にとっても母なのです。」
 - 実の母ではないだろうが、パウロにとって母親のような存在である人
 - 彼女の名前がないのは残念！
 - もちろんパウロが「母」と呼んでいる唯一の女性

ルフォスとは？

- 十字架を担いだシモンの息子の一人
 - 「そこへ、アレクサンドロとルフォスとの父でシモンというキレネ人が、田舎から出て来て通りかかったので、兵士たちはイエスの十字架を無理に担がせた。」マルコ15:21
 - この二人の名前がマルコ福音書に記録されているということは、彼らは当時の教会でよく知られていた人物である（おそらくローマ教会）
- クリスタンホームとなったシモン
 - ということは、シモンはその家族共々クリスタンとなり、教会で重要な働きをした

キレネ人シモンについて

- 「キレネ」は北アフリカの町

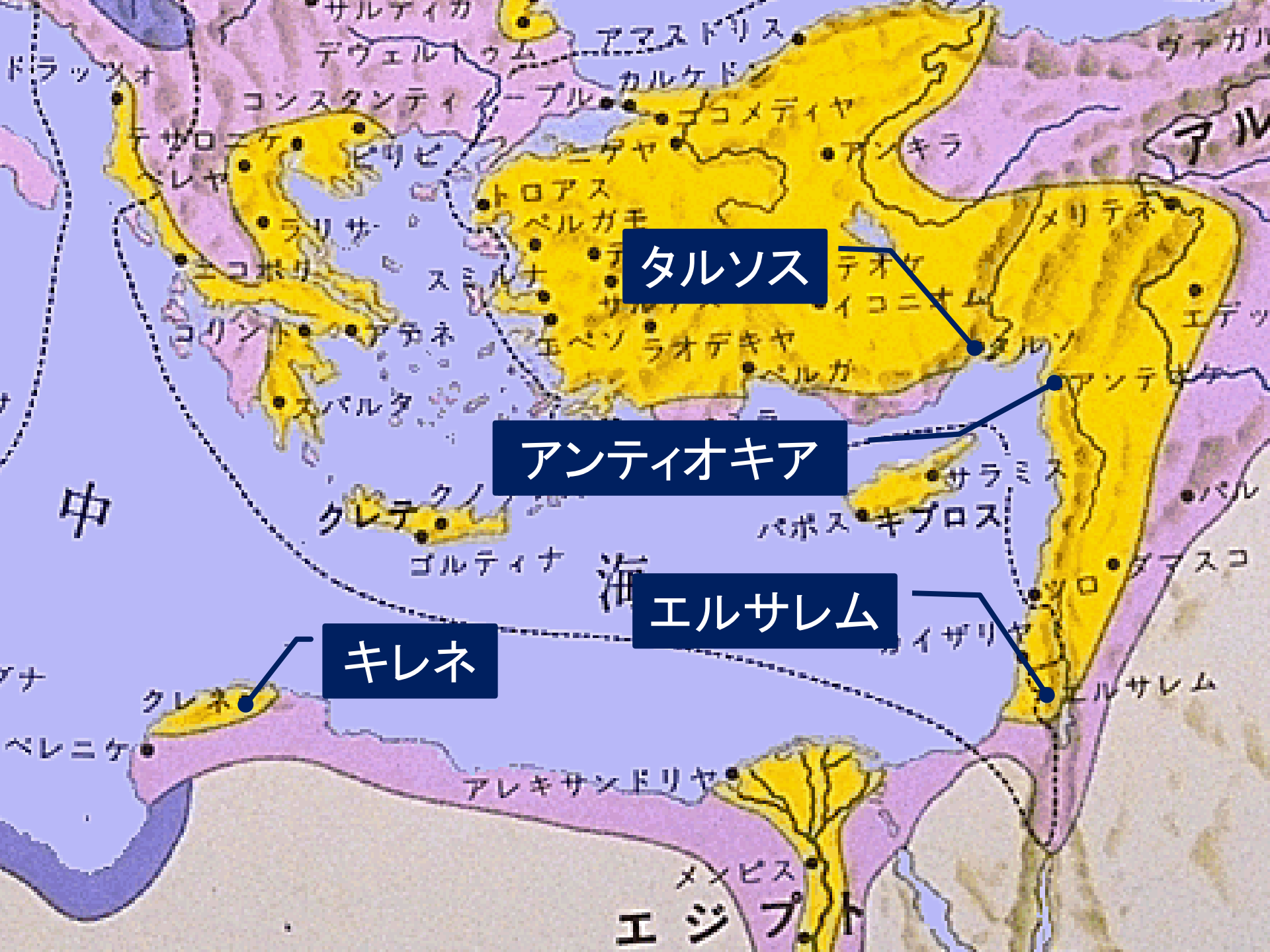
- 彼自身が改宗者（異邦人でユダヤ教に改宗した人）であったか、ユダヤ人の主人と共に過越祭のためにエルサレムに来た

- アンティオキア教会のシメオン

- 「アンティオキアでは、その教会にバルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、…サウロなど、預言する者や教師たちがいた。」
- 「ニゲル」はラテン語で「黒」：シモンはアフリカ人
- 「シメオン」はギリシャ語「シモン」のヘブライ語読み
- シモンはアンティオキア教会の教師となった

パウロとシモン一家とのかかわり

- アンティオキアは最初の異邦人教会
 - 「このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。」使徒11:22
- サウロ(パウロ)を探しに行ったバルナバ
 - 「それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。」11:25-26
- パウロはシモンの家に逗留していたのだろう
 - シモンの妻であり、ルフォスの母である女性はパウロを息子のようにかわいがったのだろう



タルソス

アンティオキア

エルサレム

キレネ

パウロの再生を支えた女性

- 命を狙われ実家であるタルソスにいたパウロ
 - 「彼らはサウロを殺そうとねらっていた。それを知った兄弟たちは、サウロを連れてカイサリアに下り、そこからタルソスへ出発させた。」9:29-30
 - 劇的な改心を経験し、宣教に燃えていたが…
- パウロを再生させたシモン家の交わり
 - 異邦人クリスチャンたちとの温かい交わりは、パウロに異邦人宣教の熱意を与えた
- ローマに移ったシモン一家
 - 「ルフォス、およびその母」＜シモンは亡くなったか？
 - パウロより先にローマにいる

十字架を背負った
シモン

彼とその家族が
クリスチャンとなる

バルナバ、パウロを
アンティオキアに連
れてくる

タルソスに帰ってい
た失意のパウロ

家族でローマに移住

家族でアンティオキア
教会で働く

パウロ、シモンの家
で世話になる

宣教旅行に出る

ローマ教会に
手紙を送る

私の母によろしく

「わたしにとっても母なのです」

- 「母」なしには存在し得ない人間
 - 産み育てるという特別な能力を神が女性に与えられた
 - 母の愛と献身によって人間は成長する
- 「母」と呼ぶことで感謝を表したパウロ
 - 自分を愛し、育ててくれた人だという表現
 - おそらくこの女性にとって、これほど嬉しい言葉はなかったのではないか！
- “Unsung Hero”である母
 - 賞賛されることのないヒーロー(ヒロイン)
 - 実は神の愛の本質を表している！

お母さんありがとう！



そして、お母さんを
造られた神様ありがとう！